



平成24年8月7日

各 位

会 社 名 株式会社 ニチレイ
代 表 者 名 代表取締役社長 村井利彰
本 社 所 在 地 東京都中央区築地六丁目19番20号
コ ー ド 番 号 2871
上 場 取 引 所 東京（市場第一部）
問 合 せ 先 執行役員経理部長 田口 巧
TEL (03) 3248-2165

(訂正)「2013年3月期第1四半期業績概況資料」の一部訂正について

平成24年8月7日に公表しました「2013年3月期第1四半期業績概況資料」に一部訂正を要する箇所がありましたので、下記のとおりお知らせします。

記

P 1

【連結業績サマリー】第1四半期の実績と通期見込

1. 第1四半期の状況

(訂正前)

③経常利益・当期純利益：当期純利益は投資有価証券売却益などにより11億円の増益

(訂正後)

③経常利益・当期純利益：当期純利益は投資有価証券売却益などにより10億円の増益

以 上

2013年3月期第1四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2167

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

【連結業績サマリー】 第1四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第1四半期			第2四半期(累計)					通期				
	実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
加工食品	452	28	7%	922	53	6%	922	0	1,850	108	6%	1,850	0
水産	155	-1	-1%	326	-1	-0%	336	-10	660	3	1%	690	-30
畜産	185	-4	-2%	380	4	1%	390	-10	780	24	3%	780	0
低温物流	382	21	6%	774	26	3%	766	8	1,540	45	3%	1,536	4
不動産	11	-2	-17%	25	-1	-4%	25	0	50	1	1%	50	0
その他	14	-1	-4%	29	0	1%	29	0	61	1	1%	61	0
調整額	-50	5	-	-116	-7	-	-115	-1	-231	-21	-	-227	-4
売上高合計	1,150	46	4%	2,340	74	3%	2,353	-13	4,710	161	4%	4,740	-30
加工食品	15	5	48%	28	2	9%	28	0	60	8	16%	60	0
水産	-1	-3	-139%	0	-4	-	3	-3	4	2	80%	7	-3
畜産	1	-2	-63%	3	-0	-8%	4	-1	7	2	33%	8	-1
低温物流	21	5	32%	41	4	12%	36	5	78	4	6%	76	2
不動産	6	-1	-15%	10	-2	-19%	10	0	21	-3	-11%	21	0
その他	1	-0	-21%	1	-1	-47%	1	0	4	-1	-17%	3	1
調整額	-2	-1	-	-2	-2	-	-2	0	-1	-1	-	-2	1
営業利益合計	41	4	10%	81	-2	-3%	80	1	173	11	7%	173	0
経常利益	42	5	14%	78	-0	-0%	77	1	165	12	8%	165	0
当期純利益	35	10	41%	52	10	24%	49	3	100	21	27%	100	0

ROE	8%	1%		8%	-
EPS	34円	8円	29%	34円	-

1. 第1四半期の状況

注:見込は今回発表した見込で、前回見込は2012年5月8日に発表した見込

- ①売上高:主力の加工食品と低温物流がそれぞれ7%、6%と大きく伸長し、全体でも前年比4%の増収。
- ②営業利益:加工食品と低温物流が水産、畜産の減益をカバーし、全体では4億円の増益。
- ③経常利益・当期純利益:当期純利益は投資有価証券売却益などにより10億円の増益。

2. 通期見込 売上高は水産で前回見込より30億円下方修正。営業利益は低温物流で上方修正、水産、畜産で下方修正とするが全体では前回見込通り。

【加工食品事業】 第1四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第1四半期				第2四半期(累計)					通期				
	実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減	
加工食品	売上高 計	452	28	7%	922	53	6%	922	0	1,850	108	6%	1,850	0
	家庭用調理品	133	-1	-1%	265	7	3%	265	0	534	13	2%	534	0
	業務用調理品	206	12	6%	410	12	3%	410	0	839	28	3%	839	0
	健康価値	14	-0	-3%	31	2	7%	31	0	61	11	22%	61	0
	その他	99	17	21%	216	32	17%	216	0	416	56	16%	416	0
	営業利益	15	5	48%	28	2	9%	28	0	60	8	16%	60	0

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2012年5月8日に発表した見込

◆第1四半期の状況

全体

売上高は前年比7%の増収。営業利益は増収効果や鶏肉原料を中心に原材料コストが前年を下回ったことなどにより前年比5億円の増益。

1.家庭用調理品

内食・中食化傾向が続く中、チキン加工品が引き続き好調に推移し、大きく伸びた前年並みの水準を維持。

2.業務用調理品

主力のチキン加工品が全体を牽引し6%の増収。工場が震災影響から回復した春巻やクリームコロッケの販売増も寄与。

3.健康価値

ウェルネス食品、アセロラ共に前年を下回り3%の減収

4.その他

GFPTニチレイ(GFN)の欧州及びタイ国内の販売増加や好調な冷凍野菜が寄与。

◆通期の状況

売上高、営業利益共に前回見込を変更していない。

◆海外施策の進捗状況

- 1.GFNの欧州向けムネ肉加工品は予定通り販売拡大。2013年6月稼働に向けたライン増設も計画通り進捗。タイ国内の生肉販売価格は4月に底を打ち、5月以降は回復傾向に。
- 2.冷凍野菜の生産会社である中国泰安佳裕食品は予定通り6月に稼働を開始。
- 3.アジアフードに強みのあるイノバジアン・クイジーン社の買収を6月末に完了。今後は米国の冷食市場において事業拡大を図っていく。

【水産・畜産事業】 第1四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第1四半期			第2四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	155	-1	-1%	326	-1	0%	336	-10	660	3	1%	690	-30
	営業利益	-1	-3	-139%	0	-4	-	3	-3	4	2	80%	7	-3
畜産	売上高	185	-4	-2%	380	4	1%	390	-10	780	24	3%	780	0
	営業利益	1	-2	-63%	3	-0	-8%	4	-1	7	2	33%	8	-1

注: 見込は今回発表した見込で、前回見込は2012年5月8日に発表した見込

【水産事業】

◆第1四半期の状況

売上高は前年比1%の減収。営業利益は3億円の減益。ユーザー向け商材の取り扱いが伸長したものの、前年度に高値で調達した北方凍魚など全般的な販売価格の下落が響く。

◆通期の状況・主要施策の進捗状況

通期見込を引き下げたものの、売上高は前年並み、営業利益は2億円増益を見込む。厳しい事業環境が続くが、引き続き在庫の圧縮と入替えに努めるとともに、こだわり素材や加工品などの付加価値商材の拡販を進める。

【畜産事業】

◆第1四半期の状況

売上高は前年比2%の減収、営業利益は2億円の減益。消費者の低価格志向を受けチキンの取扱数量は伸長したものの収益性は悪化。ポークについても安価なチキンへ需要がシフトしたことなどにより収益性が悪化。

◆通期の状況・主要施策の進捗状況

通期は前年比3%増収、2億円増益を見込む。慎重な買い付けと在庫管理を徹底するとともに、純和鶏などのこだわり素材の販売強化や、顧客の求める加工度に合わせた商品を供給することで、より安定した収益確保に繋げる。

【低温物流事業】 第1四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第1四半期			第2四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
低温 物流	売上高計	382	21	6%	774	26	3%	766	8	1,540	45	3%	1,536	4
	物流ネットワーク	218	17	9%	439	26	6%	434	5	871	38	5%	866	5
	地域保管	116	4	4%	238	5	2%	236	2	467	8	2%	465	2
	海外	45	2	4%	93	-2	-2%	93	0	185	-3	-2%	189	-4
	その他・共通	2	-2	-42%	4	-3	-39%	3	1	17	2	16%	16	1
	営業利益計	21	5	32%	41	4	12%	36	5	78	4	6%	76	2
	物流ネットワーク	10	4	54%	18	5	40%	15	3	34	5	16%	31	3
	地域保管	11	2	22%	24	2	12%	22	2	45	4	10%	44	1
	海外	2	-0	-4%	4	-2	-32%	5	-1	7	-2	-25%	9	-2
	その他・共通	-3	-0	23%	-5	-1	37%	-6	1	-8	-2	38%	-8	0

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2012年5月8日に発表した見込

◆第1四半期の状況

全体

売上高は前年比6%の増収、営業利益は5億円の増益。

1.物流ネットワーク

9%の増収、4億円の増益。前年度末に新設したTC(通過型センター)の本格稼働や震災による仙台地区の被災センターの回復などが売上、利益両面に寄与。

2.地域保管

4%の増収、2億円の増益。大都市圏を中心に旺盛な保管需要を取込み在庫量、在庫率共に前年を上回る。

3.海外

4%の増収、営業利益は前年並み。ユーロ安の影響を受けるものの、運送需要の拡大などにより現地通貨ベースでは増収増益で推移。

◆通期の状況

1.通期は前年比で売上高3%増収、営業利益4億円増益を見込む。電力料アップの影響はあるものの、物流ネットワーク、地域保管の第1四半期の状況を受けて上方修正した。

2.なお、電力料金の値上げ影響については、今回より見込に反映している。

◆新センターの進捗状況

1.物流ネットワーク

6月に佐賀県で新規TCが稼働開始。

2.地域保管

2013年7月の東扇島DC2期棟稼働に向け集荷拡大を進める。関西地区の拠点新設についても継続検討中。

2013年3月期第1四半期連結バランスシートの変動要因

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円(未満切り捨て)

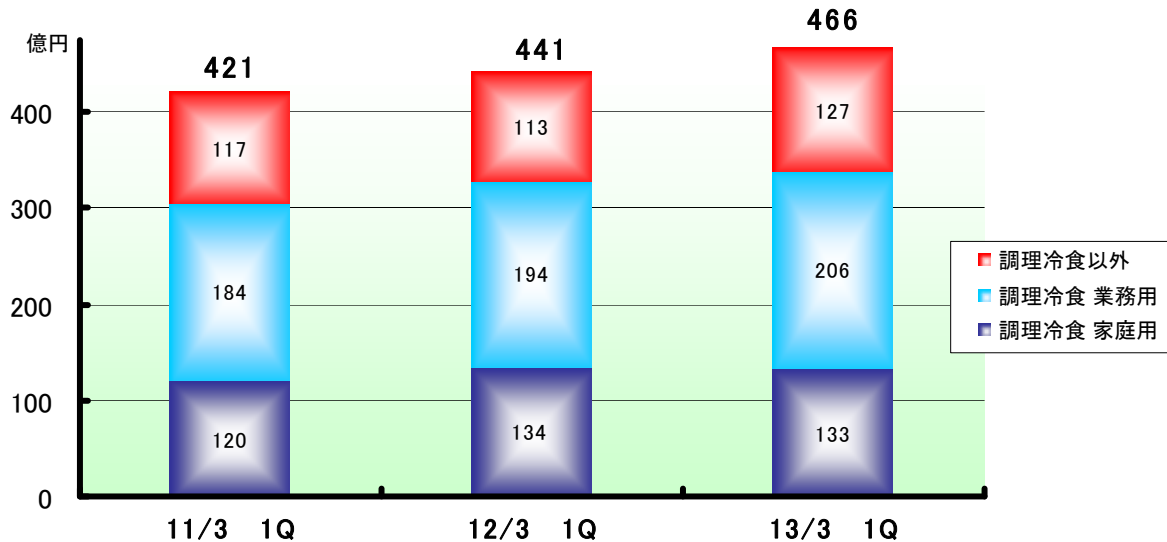
科目	12/6	12/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,225	1,154	70	①
固定資産	1,732	1,750	-17	
資産の部合計	2,958	2,905	52	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	889	841	48	②
固定負債	856	876	-20	
負債の部合計	1,745	1,718	27	
純資産の部				
(うち株主資本)	1,185	1,165	19	③
有利子負債	1,014	978	36	
(うちリース債務除く)	787	748	38	
科目	12/6	11/6	増減	
設備投資額	21	19	2	
(うちリース資産除く)	14	14	0	
減価償却費	35	36	-1	
(うちリース資産除く)	25	27	-1	

【主な要因】

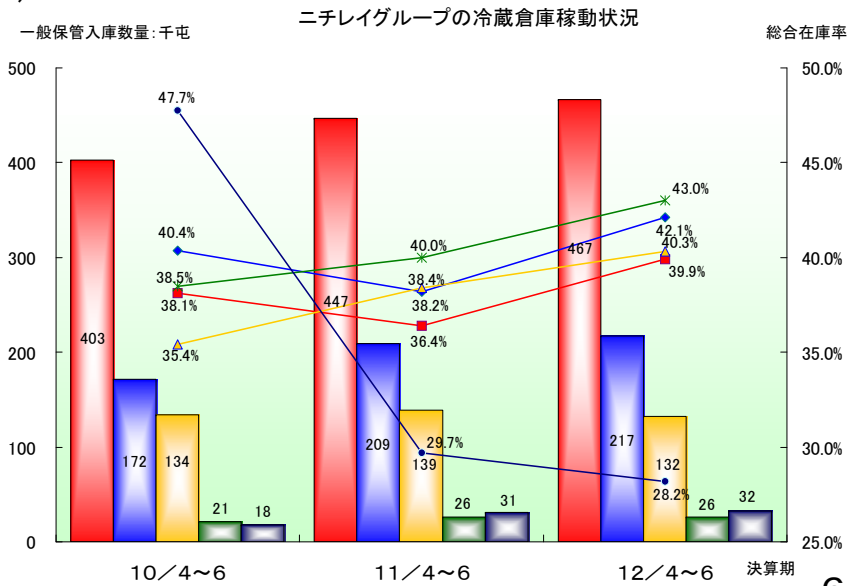
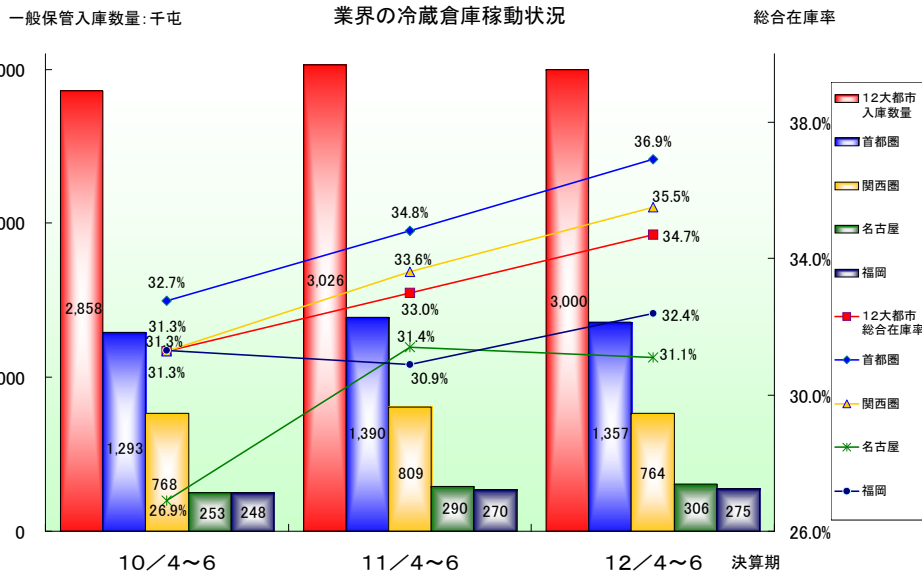
- ① 売上の増加や季節的要因により売上債権が37億円増加。また、手元流動性を高めたことなどにより現金及び預金が14億円増加。
- ② 季節的要因などにより買掛金が20億円増加。
- ③ 営業資金の増加に加え、手元流動性を高めたことなどにより36億円増加。

参考データ

冷凍食品売上高の推移 (日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



注: 在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。